

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定 **実施結果**)

| 視点 | 4年間の目標 (令和2年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (3月11日実施) | 総合評価 (3月31日実施) | |
|----------------------|---|---|--|---|--|---|---|--|--|
| | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 教育課程 学習指導 | <p>①生徒の学習意欲を高め、個に応じた進路実現を図るため、組織的な授業改善や「課題研究」等の充実に取り組む。</p> <p>②Ⅱ期「プログラミング教育」の研究推進校として、研究と実践を深める。</p> | <p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた組織的な授業改善と探究的学習等の活動を推進する。</p> <p>②「プログラミング教育」の研究や実践を授業改善に活用し、「総合的な探究の時間」等を含む全教科への取り組みとして推進する。</p> | <p>①100分授業を充実させるため、生徒が能動的に参加できる授業手法を研究し、授業改善に努める。ICTの効果的な活用を、全ての教科で研究し、情報共有を行う。</p> <p>②プログラミング教育の2つの視点「物事を分解して理解する」「やるべきことを順序立てて考える」を、全ての科目の授業改善に活用する。また、探究的活動や教科横断的な活動にも、その視点を広げる。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症対策に応じた、取り組みや工夫・改善を行う。</p> | <p>①生徒が主体的に授業に取り組むことができたか。「生徒による授業評価：項目4」の数値により測る。ICTの効果的な活用により、生徒の理解が深まったか。全教科で情報共有できたか。</p> <p>②生徒が教科指導を通して、プログラミング教育の2つの視点を理解し、活用することができたか。探究的活動等に、その視点を広げることができたか。</p> <p>※生徒の安全、安心を確保しながら、工夫・改善を行うことができたか。</p> | <p>①今年度の社会状況により、リモートでの課題指示、オンラインの授業展開の研究が推進された。必然的に全教科でのICTの活用が進み、効果的な使用法が研究された。</p> <p>・オンラインと対面授業の両立という難しい課題へも対応することができた。</p> <p>②この2つの目標を盛り込んだプログラミング教育公開研究授業を全教科で実施し、「学習指導案」と授業後の「実施報告書」を各教科で作成した。</p> <p>・本校独自視点として設定した「学習のねらいに対して、順序立てて理解を深め、学習することができた」の回答の全科目の平均は3.4となった。</p> <p>・Classroomを活用した各教科のオンライン授業の教材案、指導案を全ての職員で共有し、授業改善に役立てた。</p> | <p>①生徒の学習活動が制限された状況の中での生徒の学びの在り方のアイデアをさらに研究したい。</p> <p>・今後はリモートやICTを活用した指導が増加することが予想される。各機器の操作や効果的な活用方法を研究していく必要がある。</p> <p>②来年度は研究指定3年目のまとめの年度であるので、「物事を分解して理解する」「やるべきことを順序立てて考える」の目標をより充実させるために、指導案作りの段階から議論を深め、手順・段階・過程を意識した授業づくりを全体で行いたい。</p> | <p>・Classroomを活用した各教科のオンライン授業を全ての職員で共有し、授業改善に役立てたことは、評価できる。オンライン授業を受けた生徒の反応やオンライン授業を実施したことでの成果の指標が必要である。</p> <p>・オンライン授業とハイブリット授業を活用し、プログラミング教育を推進されたことは、素晴らしい教育成果だと思います。今後もICT教育を推進して欲しい。</p> <p>・オンライン研修旅行は素晴らしい取組みである。新聞を読み、教職員の努力と工夫に評価ができる。また、生徒のために協力してくれた観光協会や長崎県の関係者のご好意に感謝したい。</p> <p>・プログラミング教育の取組みによって生徒がどのような力をつけているか。その成果を検証して欲しい。</p> <p>・国立教育政策研究所の調査官をはじめ多くの助言者から「生徒は授業によく取り組んでいる」という言葉として嬉しく感じた。</p> | <p>①【成果】必然的な状況によりICT活用が広がり、リモート・オンラインの授業研究が推進されたことは成果となった。また、限られた状況の中で効果的な授業進行について、それぞれの職員が研究と考察を重ねて授業改善につなげることができた。プログラミング教育の視点をもった研究授業を全ての教科で実施することができた。</p> <p>【課題】対話的授業が制限された中で、生徒が主体的、能動的に授業に取り組むという課題に対しては不十分であった。ICT活用を通常の授業にどのように効果的に活用するか、さらなる研究推進が必要である。</p> <p>②【成果】プログラミング教育の「やるべきことを順序立てて考える」「物事を分解して理解する」の2つの視点を、情報科以外の教科の授業改善に活用し、その視点を踏まえた研究授業を校内で実施することができた。</p> <p>【成果】国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業として、生徒自らがコードの役割や意味を発見する情報科の公開授業を実施し、研究協議会で事例発表を行った。</p> <p>【課題】引き続き2つの視点を踏まえた授業を充実させ、授業事例(学習活動や発問の事例等)として普及させる。また、その他の視点についても積極的に取り組み、研究する。</p> | <p>①ICT活用が広がったが、今後は教材のコンテンツを充実させ、さらに効果的な活用手法を開発するために、教科の研究授業を推進する。また、各機材の取扱い操作の研修等を行い、効果的な活用について意見交換等も行う。100分授業において生徒の能動的な授業参加と深い学習につなげるよう、教科や全体での研修を推進する。</p> <p>②令和3年度は、県立高校指定校事業(プログラミング教育研究推進校)、国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業ともに最終年度となるため、これまでの取組内容・成果をまとめ、普及する。</p> <p>②プログラミング教育の視点「やるべきことを順序立てて考える」「物事を分解して理解する」をさらに深め、全職員でプログラミング教育の視点を踏まえた授業手法・指導法やICTを活用したわかりやすい授業について研究する。また、その他の視点についても積極的に取り組み、研究する。</p> |
| 2 (幼児・児童・)生徒指導・支援 | <p>①部活動の活性化を通して、責任感や連帯感の涵養を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりに</p> | <p>①部活動への積極的な取り組みを、より一層充実させる。</p> <p>②生徒情報を共有し</p> | <p>①部活動の活性化のため、加入率の増加を図る。部活動を継続させる工夫や、再加入の取組みを推進する。</p> <p>②各年次での生徒</p> | <p>①加入率が向上したか。生徒、保護者の満足度が高まったか。</p> <p>②月1回程度のコア</p> | <p>①新型コロナウイルス感染症のため、新入生に対する勧誘活動も不十分で、また活動ができない状態が長く続いたため、加入率は減少した。そのような中でも、各部活動の工夫を凝らした部活動となり、充実した活動ができた。</p> <p>②各年次や会議を通</p> | <p>①部活動再チャレンジ週間の実施など、再加入の取組みを推進する。</p> <p>②SCの利用状況から</p> | <p>・新型コロナウイルス感染症対策を写真入りでHPに掲載したことは、大変わかりやすく、保護者にも安心感が伝わるので継続して欲しい。</p> <p>・部活動入部率は減少しましたが、陸上部や華道部、スノーボード等で活躍している生徒達に刺激を受け、入部率が増加することを期待する。</p> <p>・「家庭全体への支援が鍵</p> | <p>①新型コロナウイルスの影響を受けて大会等が中止となった部活がほとんどであった。生徒自身でじっくりと考え、リモートなどを利用して部活動の意義やさらなるチームワーク向上に取り組んだ。今後は、大会等が中止にならないようにマスクの着用や手洗い、消毒などの指導を徹底し、自覚を促したい。</p> <p>②各年次会、企画会議、職員会議</p> | <p>①4月に「部活動行こう週間」を設定し、最終学年となる20年次生の加入率を上げるための活動に取り組む。日常的に放送や掲示物等で新型コロナウイルス対策の徹底を図る。</p> <p>②年次の教育相談担当者を中心</p> |

| | 視点 | 4年間の目標 (令和2年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (3月11日実施) | 総合評価(3月31日実施) | |
|---|--------------|--|---|---|--|--|---|---|---|--|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| | | とりに対するきめ細やかな支援と規律正しい学校生活への指導の充実を図る。 | 有し、生徒理解を深めることで、個に応じた適切な支援を行う。また、規範意識の向上に努める。 | 徒情報を密にし、定期的なコア会議を開催する。 ※上記 | 会議を開催できたか。迅速丁寧で、組織的な支援を行うことができたか。 ※上記 | じて教職員間の連携が取れ支援が必要な生徒にはSCやSSW等と情報共有を行い課題解決に努めた。SC利用19回延べ66人(保護者2人教員3人利用)、ケース会議は延べ9回開かれた。コア会議は、延べ6回開かれた。 | 保護者や教員も悩みを抱えており、生徒の相談内容の背景には家庭の影響が大きく、家庭全体への支援が鍵となるため外部機関との連携を密にして個に応じた対応とコア会議等を積極的に実施し、教職員情報共有の強化が必要。 | となる」よりSSWの配置増等を県教育委員会に、要望の検討をする必要がある。 ・家庭内のトラブルについて、その地域の民生委員と連携する必要があるれば、積極的に協力することができる。 | を通じて、生徒の情報を共有し、必要に応じてケース会議を開催し、迅速に対応した。SCや関係機関と連携を図ることにより、課題解決に繋がった。教職員の生徒に対する理解度は高まったが、保護者や関係機関との連携体制を再構築する必要がある。 | に担任や生活指導グループ、養護教諭などの更なる連携が必要となる。SCを通じながら関係機関と相談体制の強化を確立する。また、教育相談コーディネーターの役割を整理し、新たなコーディネーターを育成する。 |
| 3 | 進路指導・支援 | ①進路希望の実現に向けて、生徒が主体的に目標を設定し、計画的に実行できる指導・支援の確立を図る。 | ①生徒が主体的に進路選択できるように、校外での体験、外部テストの活用や三者面談の充実を図る。また、生徒の進路選択に有益な、正確で丁寧な情報提供を行う。 | ①3年間を見通した、計画的で効果的なガイダンスを実施する。個々の進路に応じた、きめ細かい進路指導を行う。進路室の充実を図る。 ※上記 | ①多くの生徒が、希望の進路を実現できたか。卒業時に、進路未定の生徒が減少したか。 ※上記 | ①コロナ禍で、規模を縮小しながらであったが、進路行事を実施できた。進路決定については、四大進学実現率84.5%と昨年(80.0%)より高い結果となった。進路未定生徒も昨年に比べて減少した。 | ①生徒減少に伴う教員減少の影響で、進路指導業務をどのように実施し、効果的な成果をあげられるかを今後していく必要がある。 | ・コロナ禍で教育計画の変更や中止を余儀なくされる中でも、進路指導等で成果をあげているのは大変素晴らしい。 | ①【成果】四年制大学進学実現率84.5%と昨年度にくらべ、向上した。(昨年は80.0%)また、進路未定のまま卒業した生徒が4名(昨年15名)と激減させることができたのは大きな成果であった。 【課題】教員が減少する中で、いかに同様の指導ができるかを考える必要がある。公務員の合格率が低かったため、合格率を向上させたい。 | ①公務員希望者には早めの効果的な情報提供を行う。 ①公務員専門学校との連携を深め、対策講座を更に充実させ、公務員試験合格に近づける。また、家庭学習の徹底を呼びかける。 |
| 4 | 地域等との協働 | ①地域との交流や協働を深め、地域に信頼され開かれた学校づくりを推進する。 | ①外部(近隣小中学校・企業・大学・専門学校等)との連携や協働を強化し、地域の教育力を積極的に取り入れる。 | ①継続して行われている様々な外部連携や協働に、生徒がより積極的に参加できるよう工夫し、新たな取り組みについても検討する。※上記 | ①地域の教育力を活用することで、生徒の自己肯定感を育むことができたか。地域に貢献することで、本校の教育活動が理解され、信頼感が高まったか。 ※上記 | ①コロナ渦の中、地域と連携する機会が減少したが、神奈川工科大や橋本図書館等と連携し、生徒の自己肯定感を育成した。 | ①生徒数減少のため、活動に制限が出ると思うが、次年度以降も形式や方法を検討しながら継続していきたい。 | ・様々な主体的活動を通して「生徒の自己肯定感を育成した」ことは素晴らしいことである。具体的な方法を知りたい。 | ①【成果】地域との交流が制限されていた中、いくつかの活動で交流ができ本校の教育活動を理解され、信頼感を維持することができた。 【課題】生徒数減少のため、活動が限られる可能性がある。 | ①地域関係者と連絡を密にし、コロナ感染症に注意しながらも、要望に応じてできることを最大限に実施し、本校の魅力を発信することで信頼関係を維持する。 |
| 5 | 学校管理 学校運営 | ①生徒の安全・安心な学校生活を維持するため、すべての職員が変化に迅速に対応し、積極的に課題に取り組む学校組織を構築する。 ②再編・統合を計画的に推進する。 | ①風通しの良い職場環境を心掛け、事故不祥事防止に努める。また、学校運営協議会を活用することで、組織的な課題解決力の向上を図る。 ②3年後の再編・統合に向けた業務を計画的に遂行する。 | ①情報交換を密にする。研修会を効果的に活用しながら、教職員一人ひとりが、自身の問題として考えられるよう工夫し、事故防止に努める。学校運営協議会を活性化する。 ②再編・統合に向けた課題を整理し、積極的な提案を行う。 ※※上記 | ①すべての職員が、効率よく業務を推進できる職場環境であったか。不祥事故防止が徹底できたか。学校運営協議会を活用できたか。 ②再編・統合に向けた目途や調整が進んだか。 ※上記 | ①令和4年度を見据えながらグループ編成や業務分担を計画的に実施し職場環境を醸成した。不祥事故防止の徹底を図り外部からの助言を積極的に活用した。 ②再編・統合における備品・消耗品等の整理も計画的に推進できた。 | ①風通しの良い職場環境を組織的に取組んだが、今後は、職員数が減少するため、更なる業務の効率化が課題となる。 ②今後も職員数が減少する中で再編・統合の業務を再整理し、共通的な物品等について計画的に整理することが課題である。 | ・相互の声掛けを大切に、風通しの良い職場環境を醸成するために研修等を実施し、組織的に取り組んだことは評価できる。 ・再編にあたり、生徒の良さと相模原総合高校の良さを継承して欲しい。また継承のために、様々な取り組みや活動を具体的に言語化し、校内で共有化されることを期待する。 | ①【成果】情報交換や研修会を積極的に行い風通しの良い職場環境を整え、年次やグループ間の隔たりをなくすことで職場全体のチームワークが向上した。 【課題】今後は、さらに職員数が減少するため、業務の効率化と協働、引継ぎが課題となる。 ②【成果】再編・統合の業務を整理し、様々な備品、消耗品について計画的に整理を遂行した。 【課題】職員数が減少するなか、更なる業務整理と計画的な業務遂行が課題である。 | ①年次会やグループ会、企画会議等で情報交換の機会を設け、個々の職員が事故不祥事防止に高い意識を持つように努める。今後も学校運営協議会にて積極的に意見や助言を頂き活用を図る。 ②次年度の再編・統合に向けた課題を整理し、年間行事計画や月間行事計画に整備業務を計画し遂行する。全職員で取り組む必要がある。 |